

序

わが国では、医薬品名として約17,000種類の薬が疾患の治療のために用いられています。主治医は患者の病態を正しく把握したうえで、これらの薬を適切に使い分ける必要があることは言うまでもありません。しかし臨床の場では、薬の処方や使い方が難しい、あるいは、症例をベースにした薬の処方を学びたい、という臨床医の声をしばしば聞きます。

そこで本書では、日常診療で遭遇するありふれた疾患を対象にして、処方判断の難しい症例や処方に注意を要する症例、あるいは研修医が処方へのピットフォールに陥りやすい症例を集め、それぞれの症例をもとにして、薬の使い方を臨床経験の豊富な先生方に解説していただきました。1症例ごとに、処方や薬物療法に的を絞って、わかりやすくまとめていただきましたので、今後の診療に大いに役立つものと思います。

本書が薬の処方に関するトレーニング集として活用され、薬の適正使用の推進に役に立つことを期待しています。

最後に、本書の企画・編集にご協力いただきました羊土社編集部の秋本佳子様と鈴木美奈子様に厚くお礼申し上げます。

2011年8月
藤村昭夫